



平和と独立を求める民衆の「決意」を伝える  
神道ジャーナリズム誌

■ 本号の内容

【主張】 かわりゆく米国とかわれない日本（木川智）：1 / アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る：40（仲村之菊）：4 / 花瑛塾十一月活動報告：6 / 【連載】記録沖繩戦⑨ 軍民・日米それぞれの視点から（沖繩戦史研究会「棒兵隊」）：7 / 中曽根合同葬問題に関する議論を振り返って（木川智）：9 / 【連載】葦津珍彦と神道ジャーナリズム 「時の流れ」を読み解く10（鎌倉佐助）：13 / 編集後記：16

1部 1000円

# 米国大統領選挙 バイデン氏、次期大統領へ

# かわりゆく米国とかわれない日本

神苑の決意 木川智

【主張】 過日、米国大統領選挙の投票票がおこなわれ、米民主党ジョー・バイデン次期大統領が選挙人の過半数を得ることを確実にし、勝利演説をおこなった。

トランプ大統領は敗北宣言をせず、訴訟を提起したり、バイデン陣営の選挙の不正を盛んに喧伝しているが、おそらくここから選挙結果が変わることは考え難い。トランプ大統領がさらなる政権移行の妨害をすることも考えられるが、順当に受ければ来年一月にはバイデン次期大統領が正式に米国大統領に就任する予定である。

■ 決して混乱した選挙ではなかった

今回の大統領選挙について、何か混乱した選挙で、異常な選挙であったかのような報道がなされているが、決してそのようなことはない。むしろ世界に米国の自由と民主主義の底堅さを思い知らせた選挙であったのではないだろうか。

何をもって混乱した異常な選挙だったのかというと、郵便投票というこれまでにない手法が使われたこと、そのため大勢が決し当確が出るのに大変な時

間がかかったこと、当初トランプ大統領がリードしながらバイデン次期大統領による急転直下の逆転劇が起きたことなどがあげられるようだ。

しかし郵便投票は、コロナ禍のなかで必要な投票方法であり、サインの確認など不正防止策も徹底されていた。もともと米国では、海外に居住する有権者などを対象に郵便投票が実施されており、けしてにわか仕立ての制度でもない。日本でも郵便を利用した在外投票制度がある。見方によっては、多くの反対の声があるなか、このコロナ禍で「大阪都構想」の住民投票が強行された日本こそ、混乱・異常のた